



みなみっ子

41号

学校教育目標

自立

協働

創造

令和8年7月16日(木)

南城市立大里南小学校

文責 校長 與儀 毅

「大里」の地名の由来は？こんな疑問を持ちました！

私たちの学校の地域の「大里」とはどのような由来なのか疑問に思い、いろいろ調べてみました。

結論から言うと、大里という地名自体の直接的な語源（なぜ「大里」なのか）を明確に示した公的記録は残っていませんが、歴史的書物やグスク（城）の変遷から、その名前の持つ意味や由来を紐解くことができます。

1 『おもろさうし』に見る最古の記録

大里の地名は非常に古くから存在します。12世紀～17世紀初頭の琉球の古い歌謡を集めた『おもろさうし』には、すでに「大さと（おおざと）」という名で登場しています。元々は大きな集落や拠点を意味する言葉として定着していたと考えられます。

2 「島添（しましー）大里」という名の由来

三山時代（14世紀～15世紀初頭）、沖縄本島南部には「大里」と呼ばれる強力な拠点が2つあり、南城市の大里は「島添大里（しましーおおざと）」と呼ばれて区別されていました。

島添（しましー）の意味：沖縄の方言で「島々を従える」という意味があります。

名前の由来：当時の大里を拠点にしていた領主（島添大里按司）が、周辺の知念・玉城・佐敷などの地域まで広く支配下に置き、強大な勢力を誇っていたことから「島々を従えるほど大きな拠点（里）」という意味を込めてこう呼ばれました。※ちなみに、もう一方の拠点は「島尻大里（しまじりおおざと）」と呼ばれ、現在の糸満市大里付近（旧高嶺村）にあたります。

3 県内他地域にある「大里」の由来

南城市の大里が本家となり、そこから派生して名付けられた地名もあります。

沖縄市の大里：沖縄市にある大里集落は、17世紀の記録に登場します。この地名の由来は、「南城市の大里の按司（領主）の娘を嫁に迎えた人物が、新しく集落を開いたこと」という伝承が残されており、本家である南城市の大里から名前を取ったとされています。

まとめ

南城市の「大里」は、古くから栄えた大きな拠点であり、三山時代には周辺の島々（地域）を支配するほどの勢力を持ったことから「島添大里」としてその名を轟かせた歴史が、地名の由来に深く刻まれています。

沖縄・南城市「大里（おおざと）」：地名の由来と歴史を紐解く

古くから「島添大里」として知られ、周辺地域を支配した強大な拠点がその名の由来となっています。

「大里」の語源と強大な勢力の象徴



地名の広がり地域間の繋がり

